

カリキュラム

機構施設名：北海道職業能力開発促進センター

実施機関名：株式会社日本能率協会コンサルティング

A.生産管理		製造分野におけるDX推進
	管理手法	

コースのねらい	生産現場で用いられる各種製造装置や製造工程の監視・制御にICTやIoTなどのデジタル化を組み込むことにより、製品やサービス、ビジネスモデルの改革(DX)を推進して、生産性向上、ビジネス競争力を獲得する方法を理解する。
---------	--

講義内容	「基本項目」		「主な内容」	訓練時間(H)
	1	製造業におけるDXの理解	・DXとは ・DXで目指したいこと ・なぜDXが必要か ・DXの3つのステップ ・データ利活用に向けて ・ITが無くてもできるDX ・製造業におけるDXのステップ別ポイント	1.5
	2	DX実現事例	・製造プロセス分析/QC工程表と連動したIoT導入事例 ・検査のペーパーレスとデータ利活用による品質管理への展開事例 ・拠点間QCD情報のリモート入手・展開マネジメント事例 ・TPM活動と連動した設備稼働率からの改善事例 ・サプライヤーとの設計・製造データ連携事例 ・FMEAデータベース構築事例 ・生産計画変更情報の変化点管理見える化事例 ・管理部門の業務効率化、ペーパーレス事例	1.5
	3	DX推進の目標設定と解決策	・ビジネス目標とDX推進目標の連動～And志向 ・業務プロセス分析推進人材、データ分析推進人材等の育成とプログラム作成 ・IoT、センサー、ICTの導入計画とROIの検討	1.5
	4	DX推進の計画と実行	・中長期DX計画の立案と予算確保 ・フロントローディング型実行計画の立案 ・人材ロードマップと教育計画の立案【演習】	1.5
合計時間				6.0

カリキュラム作成のポイント
製造DX推進に向けて、様々な業種の他社事例もふまえながら、DXで目指す目標を確認する。 また、自社でDX推進するための自社業務の分析、革新アプローチ、実施課題を議論し、実践的な研修とする。

訓練に使用する機器等	
●機器・ソフトウェア(受講者用) ・なし	●機器・ソフトウェア(講師用・その他) ・PC(講師持参)
●使用するテキスト ・オリジナルテキスト	●その他

利用事業主に用意を求める機器等	備考
・プロジェクター・スクリーン・ホワイトボード・マーカー(黒・赤)	